

保健師の看護協会入会に対する意識調査
報告書

奈良県看護協会 保健師職能委員会

令和3年3月

目 次

I. 調査の概要	1
----------	---

II. 調査結果	3
----------	---

III. まとめ	17
----------	----

【資料】

令和2年度奈良県看護協会保健師職能委員会メンバー	18
--------------------------	----

I. 調査の概要

1. 調査の背景

奈良県における 2019 年 3 月 31 日現在の看護協会入会率は 58%であり、全国 46%と比較しても高い入会率である。奈良県の入会率を職種別にみると、助産師 77%（全国 69%）、看護師 65%（全国 55%）であり全国と比較しても高い入会率であるが、保健師は 23%（全国 38%）と著しく低い状況にある。

2. 調査目的

奈良県内で就業する保健師の看護協会入会に対する意識を把握し、保健師の入会率が低い要因および関連要因について明らかにする。その結果を踏まえて、新規入会および再入会に向けた効果的な取り組みについて検討する。

3. 調査対象

奈良県内で就業している保健師（入会・未入会問わず）486 名

4. 調査方法

自記式質問紙調査

5. 調査期間

2020 年 11 月中旬～2020 年 12 月

6. 調査項目

1) 全員への質問項目

(1)基本属性

所属機関, 年代, 保健師経験年数

(2)入会の有無

(3)保健師職能の認知度

(4)保健師職能の活動の必要性

2) 会員への質問項目

(1)入会のきっかけ・継続している理由

(2)委員・理事経験の有無

(3)入会による利益

3) 途中退会者への質問項目

(1)途中退会の理由

(2)途中退会による不利益の有無

4) 未入会者への質問項目

(1)未入会の理由

(2)未入会による不利益の有無

5) 看護協会および保健師職能に期待すること（自由記載）

※本調査は奈良県看護協会倫理審査委員会の承認を得た（承認番号：18）

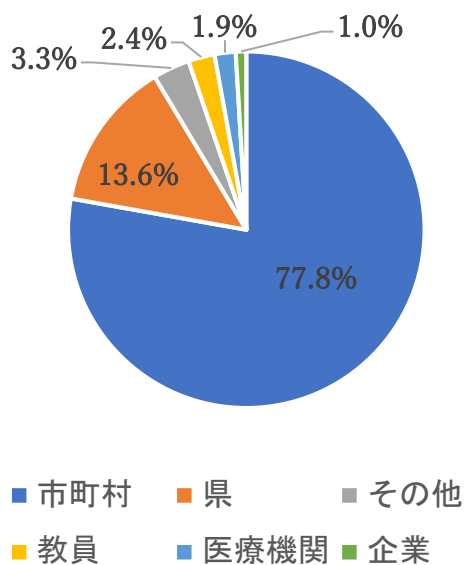
II. 調査結果

調査票配布数 486、回収数 423、回収率 87.0%であった。

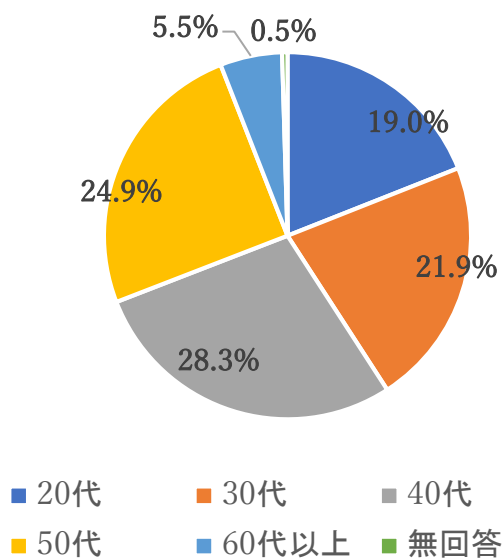
1. 基本属性

市町村に所属する 20～30 代、経験年数 10 年未満の保健師から多くの回答を得た。

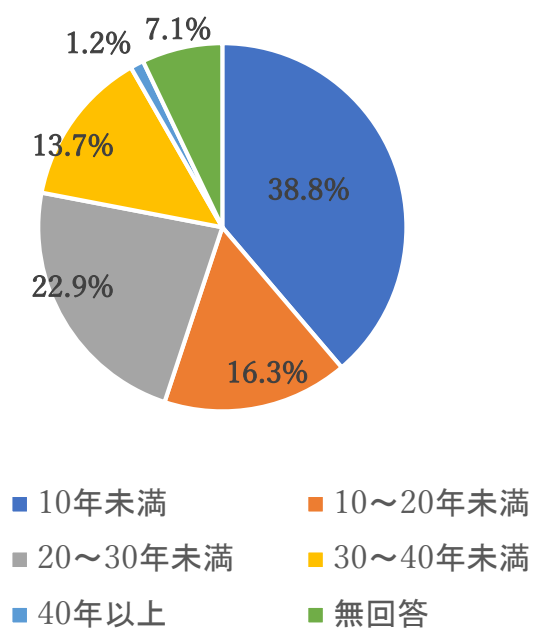
1) 所属



2) 年代



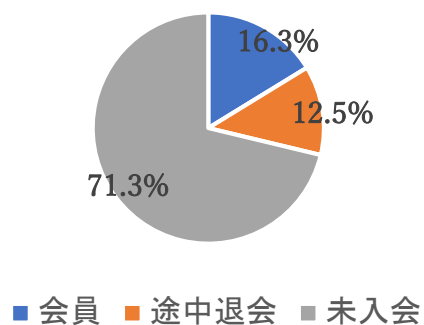
3) 経験年数



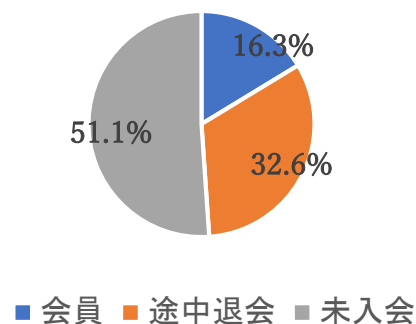
2. 年代別入会状況

年齢別にみると、20代の未入会率が71.3%と最も高く、次いで、30代が51.1%であった。途中退会率では、50代が43.4%と最も高く、次いで、30歳代が32.6%であった。

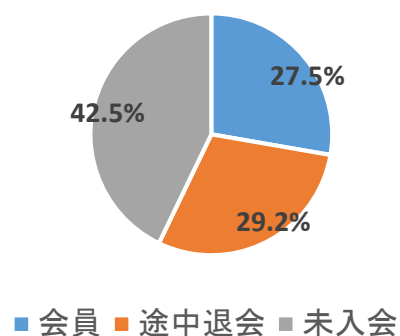
1) 20代の状況



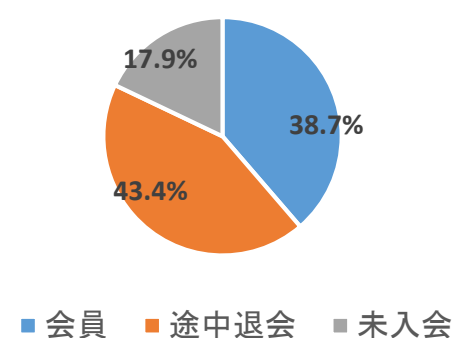
2) 30代の状況



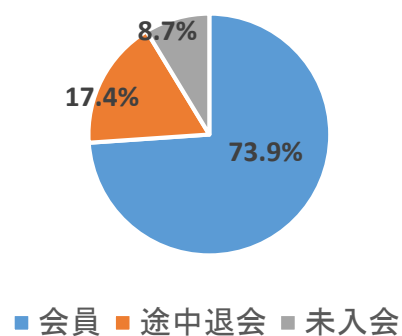
3) 40代の状況



4) 50代の状況



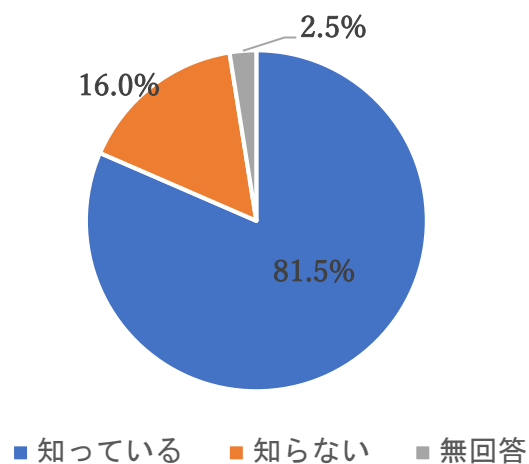
5) 60代の状況



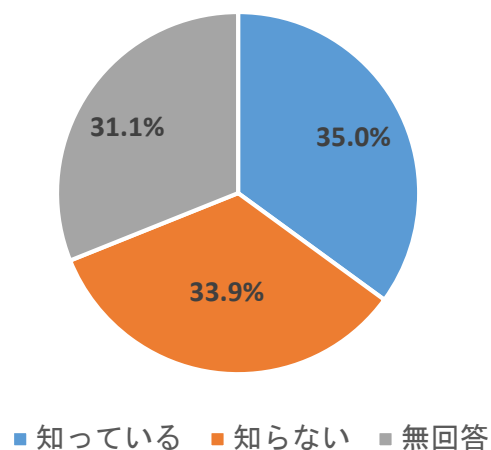
3. 保健師職能の認知度

看護協会に保健師職能があることを知っていると回答した人の割合は、入会者では 81.5%、未入会者では 35.0%であった。未入会者では、「知らない」と回答した人も 33.9%あった。

1) 入会者における認知度

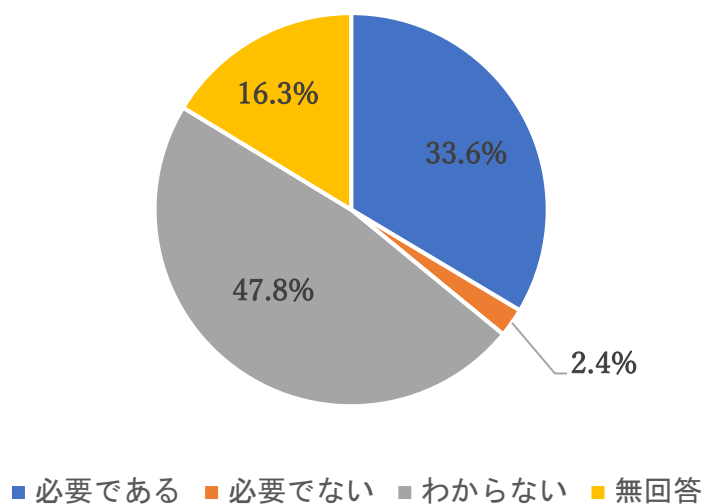


2) 未入会者における認知度



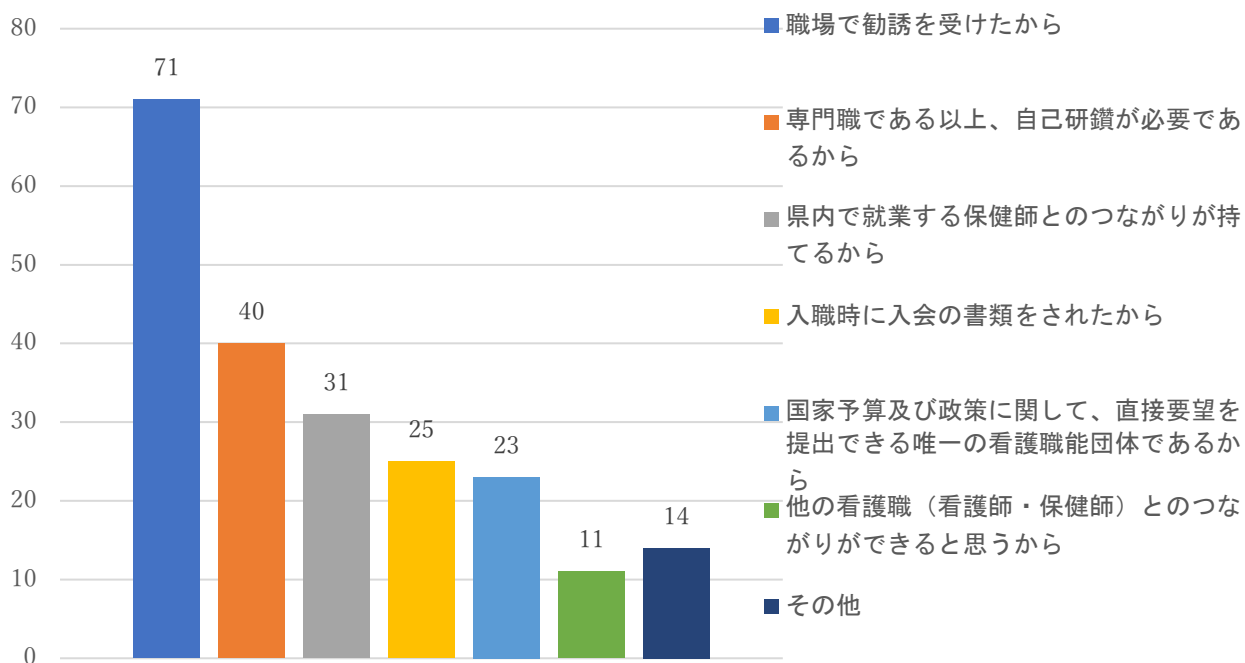
4. 保健師職能の活動の必要性

保健師職能の活動が「必要である」と回答した人の割合は 33.6%であり、「必要でない」と回答した人は 2.4%と低い状況であった。



5. 入会のきっかけ・継続している理由（入会者のみ回答）

入会の動機については、「職場で勧誘を受けたから」が最も多く、次いで、「自己研鑽のため」が多かった。その他では、「管理職として必要とされるから」との回答もあった。

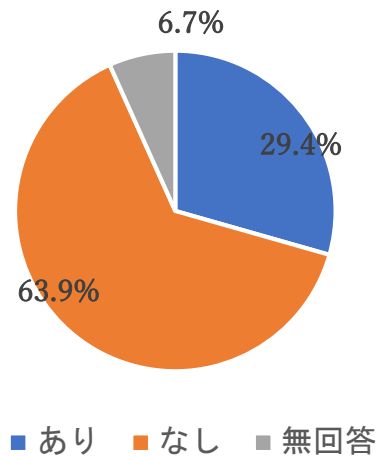


<その他の回答>

- ・入会した記憶はないが、既に入っていると聞いた
- ・職場で団体として加入しているから
- ・図書館を利用できるから
- ・看護師時代に入会し、そのまま継続しているから
- ・介護保険認定審査員として必要だから
- ・個人賠償保険に加入したいから
- ・多職種との関与が増えるにつれ、改めて自分の専門性を考える必要を感じたから
- ・係長級になり必要とされたから
- ・管理職という立場上必要とされるから
- ・日本看護協会が主催する研修に参加したから
- ・途中退会していたが、委員長をすることになったから

6. 看護協会の委員・理事の経験（入会者のみ回答）

看護協会の委員・理事の経験については、6割以上が未経験の状況であった。



7. 入会してよかったと思うこと（入会者のみ回答）

他の看護職や他職種との交流がもてる等、交流に関する回答が多かった。国の動きや政策に関する情報収集・政策提言ができる、職能について意識できる等の回答もあった。

<回答>

【交流に関すること】

- ・奈良県内の保健師と交流ができる
- ・看護師の職能の方や助産師の職能の方と知り合うことができる
- ・看護職としてのつながりができる
- ・保健師同士でのつながりをもちやすい
- ・保健所や市町村の方とも一緒に活動・情報交換ができ勉強になる
- ・最新の知識の習得や他の専門職との交流の機会が得られる
- ・他の職能との交流により、広い看護観をもてる
- ・他市町村、他府県の保健師とのつながりができ、情報交換ができる
- ・職場外の他の看護職との交流ができる
- ・他市町村の人と知り合える
- ・他の保健師とのつながり、看護職とのつながりができる
- ・他市町村、県、学校といった県内の保健師と知り合える
- ・部署や業務を越えて、保健師の交流・情報交換ができる
- ・看護師、助産師の活動がわかる
- ・県内病院で勤務されている看護部長等と知り合いになれる
- ・他の看護職とのネットワークができ、お互いに情報交換する機会となり、活動等について具体的に知ることができる
- ・市町村と情報交換ができ、実情がよくわかる
- ・他の所属の保健師と交流ができる

- ・他の看護職や他職場で働く保健師との交流ができる

【国の動きや政策、政策提言、職能に関すること】

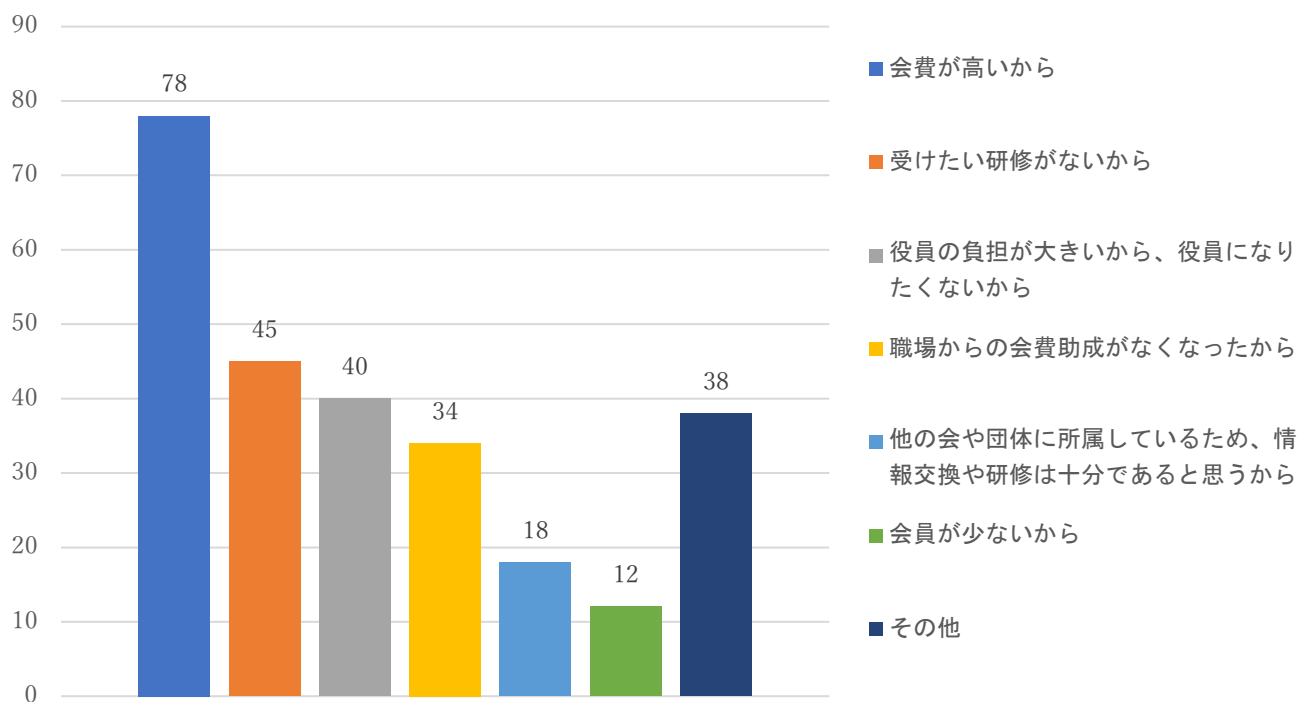
- ・国の施策に意見がいえる団体である
- ・保健師が働く環境をよりよいものに改善しようと常に考えてくれている団体である
- ・国に政策要望できる団体としての活動は必要だと思う
- ・国家予算や政策に関して情報収集ができる
- ・国の動き、日本看護協会の動きをタイムリーに把握することができる
- ・保健師としての「職能」を意識することができる
- ・専門職として、知識や新しい情報を得られ、自信を高められる
- ・保健師のおかれている現状と課題、求められていることを学ぶことができる

【研修、サービスに関すること】

- ・研修が会員価格で受講できる
- ・職場研修では受講できないテーマの研修が受講できる
- ・多岐にわたって学習できる
- ・自分の部署外の知識を身につけることができる
- ・キャリアナースや論文検索のサービスが利用できる
- ・図書館を利用できる
- ・看護協会誌で看護の動きがわかる

8. 途中退会の理由（途中退会者のみ回答）

途中退会した理由では、「会費が高いから」が最も多く、次いで、「受けた研修がないから」であった。その他では、「退職したため」「奈良県外に就職したため」等の回答があった。

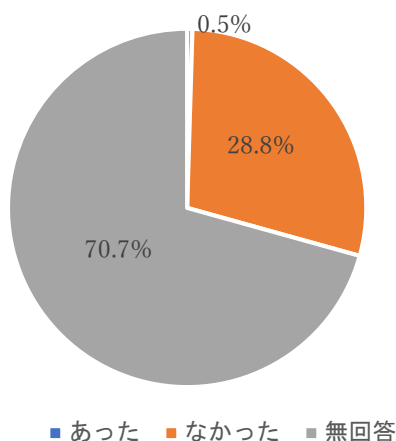


<その他の回答>

- ・退職したため
- ・奈良県外に就職したため
- ・他府県に異動し職場が変わったから
- ・転職を機に退会した
- ・看護師に従事している時に入会していたが、保健師に転職後に入会するタイミングがなく現在に至っている
- ・病院勤務の時に入会していたが研修等に参加できず、年会費だけ払っているような状態だったので、今の職場になってから再入会しなかった（都道府県が変わったので退会したままになった）
- ・看護師として働いていた時には入っていたが、いったん退職したことをきっかけに期限が切れた
- ・看護師として病院で勤務しているときに入会し、産休のタイミングで退会した
- ・申込みをしそびれ、そのままになっている
- ・看護師から保健師に転職した時に職場の保健師が誰も入ってなかったため退会した
- ・職場で入会しない雰囲気がある
- ・先輩や同僚保健師の入会が少ないから
- ・取りまとめをする人がいない
- ・役員がまわってくるのではと思うため

9. 途中退会したことによる不利益（途中退会者のみ回答）

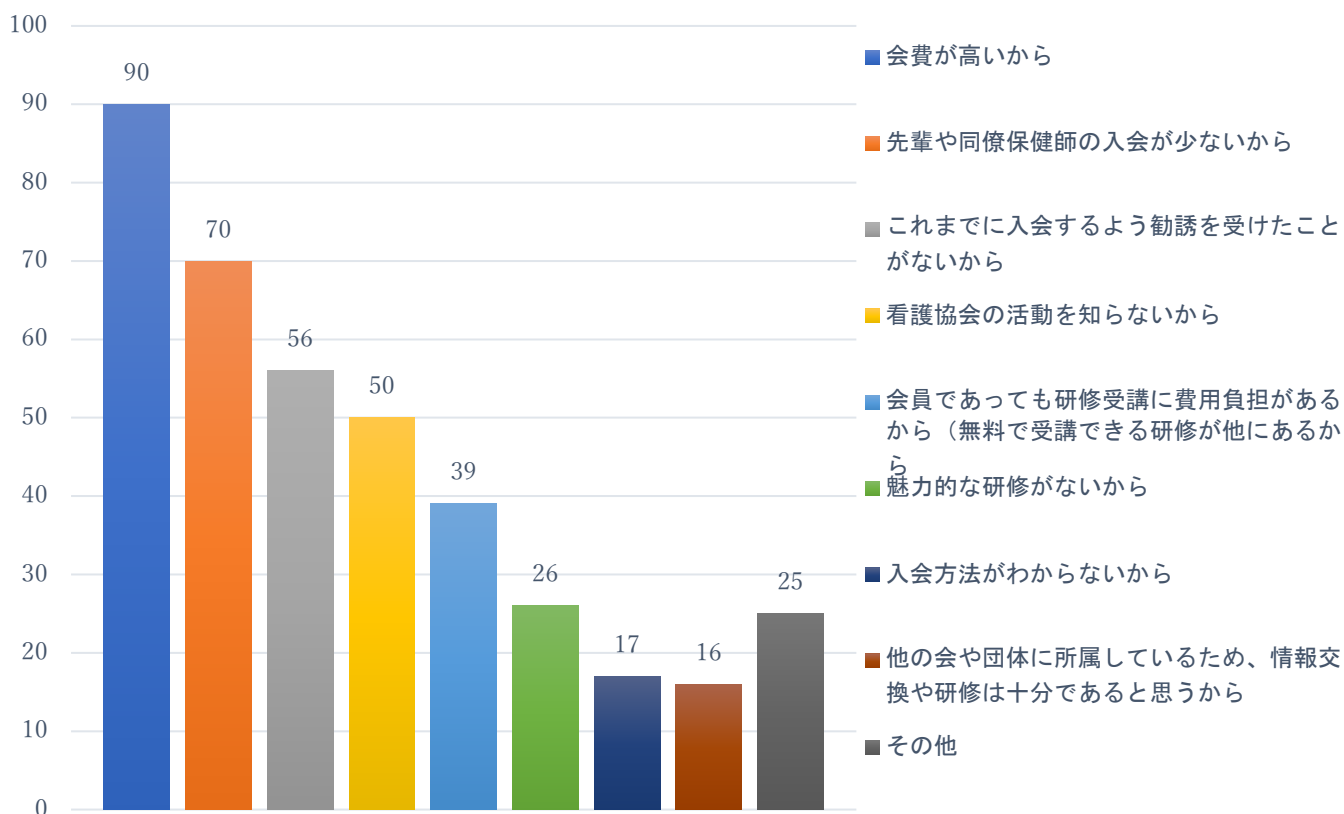
途中退会したことによる不利益については、不利益があったと回答した人は 0.5%であった。無回答が7割以上であった。



10. 未入会の理由（未入会者のみ回答）

未入会の理由では、「会費が高いから」が最も多く、次いで、「先輩や同僚保健師の入会が少ないから」であった。「これまでに入会するよう勧誘を受けたことがないから」「看護協会の活動を知らないから」と回答した人も多かった。「無料で受講できる研修が他にあるから」との回答も多かった。

その他では、「入会しようという気持ちはあるが入会するきっかけを失っている」「再入会の手続きがよくわからなかった」等の回答があった。

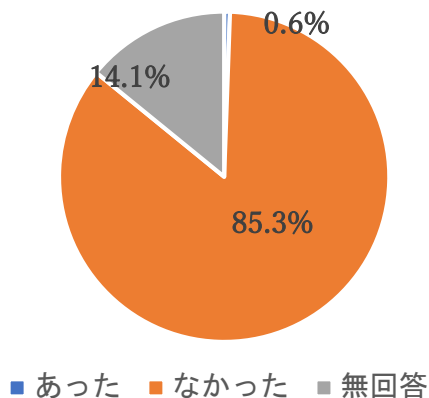


<その他の回答>

- ・入会しようという気持ちはあるが、入会するきっかけを失っている。
- ・他県から転入してきて、再入会の手続きがよくわからなかった
- ・必要性は理解できるが行動が伴わなかった
- ・職能の必要性は感じているが、今はあまり必要性を感じない
- ・自分自身の時間に余裕がないため。入会しても参加できるものが少ないと思うから
- ・役員が回ってくると対応できるかわからないから

11.未入会による不利益（未入会者のみ回答）

未入会による不利益については、不利益がなかったと回答した人が 85.3%と最も多かった。



12. 看護協会および保健師職能に期待すること（抜粋） ※件数は重複回答で計上

【研修の充実】 62 件

- ・保健師の地域づくりの力量形成について学ぶことができる研修を期待する。
- ・保健師は人数が少ないので、個々のニーズに合った研修を企画するのは難しいと思う。何を学びたいかについて、ニーズ調査をきめこまやかにされると、より魅力的な研修が企画できると思う。
- ・専門職としての資質向上が図れるような研修があるとよい。
- ・保健師が普段の現場で使える技術・知識に関する研修を希望する。
- ・保健師として、看護の幅を広げるため、看護師・助産師職能との合同研修を希望する。
- ・保健師に期待されることが、コロナも含め増大している。小児～高齢者、障害者、地域共生（様々な分野に対応できる能力求められる）その期待に対応できる技術が不足している。専門分野、管理職に対する研修の充実を希望する。
- ・看護師と保健師では職場でのサポート状況が異なっている。保健師の研修受講は自費であることが多いと感じている。保健師職能としてサポートがあるとよいと思う。

- ・行政機関で働く保健師の新任保健師教育の充実。プリセプターとなる側の研修をしてほしい。
 - ・研修参加方法をズーム等、費用のかからない（低額）方法にしてほしい。
 - ・魅力のある研修会の企画や、情報発信、できれば県内の情報だけではなく、他府県の情報なども知ることができるとよい。
 - ・e-ラーニングも、もっと保健師が受けられる講座が増えると嬉しい（乳幼児の発達、特定保健指導等）。
- 若い保健師はこれらの研修の機会に恵まれず、中堅の保健師は異動等で学び直す際に使用できると思う。
- ・保健師対象の研修内容が少ないように感じる。
 - ・参加しやすい（無償・職場皆で出席する等）研修等で身近に必要性を感じられるような取り組みがあると良いと思う。
 - ・時代に応じた、最新の情報や研修の機会があるとよいと思う。
 - ・社会情勢や、感染症・災害等への対応をふまえ、現状況に即した保健活動に活かせる内容・テーマの研修を希望する。
 - ・産業保健師の研修を増やしてほしい。
 - ・資質の向上のための研修も大切だが、リフレッシュできる内容の企画にも期待する。
 - ・他府県及び県内での協会の活動や先駆的な活動の紹介などを情報提供してほしい。
 - ・研修開催日が平日に片寄らないようにしていただきたい。図書室を土日に利用できるとよい。
 - ・看護協会という大きな組織の利点を生かし、市町村レベルで実施できないような研修会、勉強会があればよいと思う。

【保健師の交流】 25 件

- ・保健師の業務も多岐にわたり、行政においても分散配置などの理由から同じ職場内でも情報交換や交流が難しい現状がある。様々な立場や業務を担当している保健師が交流や研修できる機会を増やしていただきたい。
- ・県内保健師のつながり（横のつながり）が、希薄になっているように感じるため、そのような機会が増えることを期待する。
- ・職域保健師間でも情報共有できる場がほしい。
- ・専門職の団体として、情報共有や情報交換、また、知識の上向等にむけて、会員がレベルアップ出来る様な取り組みが出来ればと思う。
- ・ネット上などで保健師同士の情報交換の交流の場などを作って利用できるようにすれば、会員になる方も増えるのではないかな。市町村によっては、とても少ない人数の保健師しかない場合もあり、充分に相談や疑問を解決できない環境の方もいると思う。
- ・医療機関における保健師の役割や働き方について、他病院（他機関）とのつながりができたらよいと思う。
- ・他府県の看護協会保健師職能と交流情報交換の機会があるとよいと思う。
- ・地域包括支援センター保健師のつながりを持ちたいので企画してほしい。

【協会入会の働きかけ】 16 件

- ・保健師職として退職後も、何らかの看護職として従事している方々もいるので、看護協会へ加入をア

ピールすることが必要。

- ・県内で働く保健師との交流の場は欲しいので、もっと積極的に勧誘し、魅力的な活動をみせられる団体になってもらえたらと思う。

- ・市町村保健師は、市看協等に市町村の拠出金で加入しており、看護協会に加入するメリットを感じづらいのではないかと。看護協会として市町村に出向き、首長等トップに看護協会活動・メリット等伝え、入会についてトップの理解を得ていただきたい。

- ・保健師の会員を増やす方法として大学への協会からの出張勧誘 PR を行ってはどうか。

- ・入会しようと思うのですが、再入会方法がわからず、調べようと思っているうちに機会を失うということが続いている。機会あれば市町村に案内と申し込み書を配ってほしい。

- ・会員数を増やさないと、色々なことにも取り組めないと思う。1人1人の役割が多くなって負担がかかるため、悪循環である。途中退会や未入会であっても、“お試し”ということで、(コロナで飲み会ランチ会ができないのが残念だが) 情報交換の場や自主学習の場など予算があまりかからない方法でのイベントを開催していただきたい。まず入っていることでメリットを感じることができれば、口コミでも入会数が増えると思う。

- ・看護協会保健師職能として、若手保健師に入会を勧める場を設ける必要があると感じている(個人的に勧誘するとパワハラ的に捉えられることを懸念する)。

【職能委員会活動の発信】 13 件

- ・奈良県看護協会の保健師職能がどういったものなのかを知る機会がほしい。

- ・以前、他府県の保健師職能と交流する機会があり、活発に取り組んでおられた。本県での活動状況から知ることが必要だと思う。またそれにより、どのようなメリットがあるのか、魅力があるのか、伝えることが大切だと思う。

- ・協会の情報誌は看護師の活動紹介が多いように思う。県内で活躍している保健師についての情報発信をしてほしい。行政、産業、医療機関を問わず、個々の保健師の頑張りや仕事の魅力を伝えることができるものがいいと思う。例えばホームページを開設して、そこで職能の活動を発信してもいいと思う。

【地位向上】 12 件

- ・保健師の活動が世の中にあまり知られていないことを痛感している。もっと保健師活動が広く知られるような、取り組みが必要。

- ・新型コロナ対応に追われる看護職が多い中、現場の声を拾った上で国への要望等に反映し、待遇改善に努めてほしい。

- ・職能団体としての活動をもっと社会に PR し、理解を深めてもらうこと。特に保健婦は社会的認知度が低い。現在は、コロナ禍で保健師が取り上げられているが、奈良県においても、今保健師がどうコロナ対策に対応しているか、知ってもらいたい機会であると考えます。

- ・潜在看護師や保健師が臨床や地域の現場を身近に感じられるような、復職の足がかり、手助けとなるような存在になってほしい。 社会に対して、看護師や保健師助産師の地位向上を働きかけ続けてほしい。

【会費の減額】 10 件

- ・看護協会に入会することにより、最新の情報の入手や、他自治体のスタッフとの横のつながりが持てることが期待できるものの、日頃の業務や家庭のこともあり、役員ができるかという不安や会費の負担感がある。
- ・社会的にも副業可の職場が増えている。保健師職能、助産師職能等と分かれているが、両方に所属できるような選択肢もあってもよいかもと思う。市町村の非常勤職員にとっては、会費の負担は大きい。会費がもう少し安くなると有難い。
- ・人材の確保（深刻な人材不足と業務多忙な為）、保障の拡充（コロナ禍で危険と隣り合せの中、仕事をしている為 責任感だけでは頑張れない）、協会費の減額（定期的に配布される情報誌廃止で会費の減額していただけると有難い）。

【人材確保】 10 件

- ・保健師人材確保について国への働きかけてほしい。
- ・市町村では、非常勤や事業にスポット（母子保健・健診用務など）に従事できる保健師がなかなか見つからず、困っている。協会には、潜在保健師の発掘や事業従事のための研修会等実施を期待したい。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応について、看護師・保健師の役割が大きく取り上げられ、県民の関心も高いと思う。”大変”、というイメージに終わらせることなく、社会貢献できる職業であることを強調することで、次世代の確保、潜在看護師・保健師の発掘をお願いしたい。
- ・コロナの影響でどの職員も危険と隣り合わせで少ない人員の中通常業務外の仕事の増大で心身のストレスも増大している。国に対して、処遇改善と人員増につながる補助金等の要望をして頂きたい。
- ・コロナ感染症に対応する保健所機能がパンクしている。人員配置のあり方について協会から、国に対して要望を出して欲しい。

【多職種との連携強化】 10 件

- ・保健師に期待される役割が多様化し、分野が片寄ると他分野で活動する者にとってはニーズから外れてしまうように感じている。理学療法士会や作業療法士会など、他の職能団体の活動に参加させていただく機会があり、単純に比較はできないが、活動に関して学ぶところが多いと思う。
- ・職能の枠を越えて、保健師、助産師、看護師の三職能で連携することで、県内で働く看護職のネットワークに役立つと思う。三職能で交流できる機会があれば良いと思う。

【情報共有ツール活用】 9 件

- ・保健師のための情報誌などを作ってもらったりすると良いと思う。
- ・保健師としての知識の習得に役立つ情報があれば。
- ・情報提供をして頂きたいです。
- ・様々なところで働く保健師をつなぐ、交流・情報交換できる場やシステムづくり。できるなら保健師間・緊急時・危機管理対策下の共働、サポートのシステムや土台づくり。
- ・ネット、リモートでの情報発信があれば良いと思う。

【待遇改善】 8 件

- ・新型コロナ関連業務に従事している保健所スタッフの勤務状況の改善。
- ・コロナの関係で現場本当に大変な状況。現場の看護職が今の危機状況をどう乗り越えられるか、精神的負担身体的負担、どう協会としてサポートするか、県国への要望を継続的にして頂きたい。コロナに関連した医療従事者への支援の拡充。

【役員負担の軽減】 7 件

- ・現役で看護協会業務担当するのは多忙すぎると思う。もっと、退職保健師の活用があってよいと考える。
- ・入職当初は職場からの会費助成もあり、当然入会するという風潮の中で入会。保健師職能委員も拝命したが、役員会に出席する為に当時は公務で出張という形で出席。しかし、現在はそれも難しい状況で、業務多忙中、休みを取って…となると無理な状況。保健師の会員が減少する中、役員になる可能性も高く、そうした関係で退会している。

【協会内における職能としての地位向上】 7 件

- ・看護協会での保健師の位置づけをきっちり確立してほしい。
- ・三職能の中で最も少数で、会員も少ないが、独自の活動を続けて欲しい。
- ・奈良県看護協会の幹部役職としての保健師の増員。

【就労支援】 4 件

- ・復職者向けの研修等、就労支援の充実を期待する。

【政策要望】 4 件

- ・新型コロナウイルス感染拡大により、医療保健福祉のスタッフは疲弊している。政府に、医療や保健についての予算を十分確保されるよう、さらに声を大にして政府に働きかけてくださることを期待する。

【健康危機管理に対する備え】 2 件

- ・コロナも含め、危機管理下（自然災害、人的災害発生時）における協力体制の構築を期待する。

【研修費用の会員無料化】 2 件

- ・研修会の参加費は会員無料、非会員 5,000 円など、会員のメリットを持たせるべきである。

【賃金の向上】 2 件

- ・保健師職の給与水準の均等化が成されるような活動を期待する。

【応援保健師の派遣】 1 件

- ・災害時等、他自治体からの保健師派遣調整をしてほしい。

【研究・活動への助成金創設】 1 件

- ・保健師の活動や研究に対する助成金を協会ですべてに設定してほしい。

【研修環境の充実】 1 件

- ・書籍や情報の充実。南部でも利用しやすい状況を期待する。

【心のケア】 1 件

- ・メンタル面のフォローがあればよい（コロナ疲れ等、メンタルケア）。

【職場環境改善】 1 件

- ・男性保健師の職場環境改善（働きやすさ）を希望する。

【認定制度の創設】 1 件

- ・認定制度の導入を希望する。

【福利厚生の充実】 1 件

- ・福利厚生を充実してほしい。

Ⅲ. まとめ

1. 年代別の入会状況

20代・30代は入会率が低く、年代が高くなるにつれて入会率も高くなる傾向がみられた。全体として入会率を上げていくためには、20代・30代の新規入会者を獲得していく必要がある。

2. 入会率が低い直接的要因

未入会理由では、「会費が高いから」という回答が最も多かった。会費の問題が直接的要因であると考えられた。

3. 入会率の低さに関連する要因

未入会者では、「保健師職能を知らない」との回答も多く、保健師職能の認知度が低いことも入会率の低さに関連していると考えられた。まずは、看護協会に保健師職能が存在することを知ってもらうことが必要である。

また、「先輩や同僚の入会者が少ない」「入会するように勧誘を受けていない」との回答も多く、少数ではあるが「入会方法がわからない」「再入会の方法がわからない」との回答もあった。このことから、入会は本人の意思に加えて、職場環境が関連している可能性が考えられた。再就職や分散配置、未入会者が多い職場であっても、各自が入会に関する情報を入手でき、入会しやすい環境を整備していく必要がある。

令和2年度 奈良県看護協会保健師職能委員会メンバー

委員長：森本 めぐみ（奈良県中和保健所）

委員：植田 地咲（橿原市健康増進課）

奥田 知栄子（奈良市健康増進課）

尾島 典子（奈良県中和保健所）

啜 素代（白鳳短期大学）

森 祐美（天理市健康推進課）

※五十音順